

令和8年度次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム
第1回会議次第

日時：令和8年6月23日(火)13:30～

場所：双葉町産業交流センター 中会議室

1 開会

2 あいさつ

3 報告

(1) 令和7年度次世代伝承者育成講座（日本語・中国語・英語）の実績について

4 協議

(1) 令和8年度次世代伝承者育成講座（日本語・中国語・英語）の実施について

(2) 伝承者育成講座（英語）の今後の方向性について

5 事務連絡

6 閉会

令和8年度次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム委員

(五十音順)

	名 前	備考
有 識 者	東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授 東日本大震災・原子力災害伝承館上級研究員 開沼 博 氏	
	東北大学災害科学国際研究所准教授 佐藤 翔輔 氏	
	福島大学教育推進機構 高等教育企画室准教授 前川 直哉 氏	座長
語 り 部 団 体	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木 淑子 氏 (NPO 法人 富岡町3・11を語る会代表)	
	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議副会長 大谷 慶一 氏 (いわき語り部の会会長)	
報 道 機 関	福島民友新聞社 論説副委員長 菅野 篤司 氏	
	福島民報社双葉郡統括兼双葉南支局長 鈴木 宏謙 氏	

3 報告

I 令和7年度事業報告

1 ネットワーク化・レベルアップ

- (1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
 - ・第1回 令和7年5月15日(木) 東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室
 - ・臨時総会 令和7年7月2日(水) 富岡町文化交流センター 小ホール
 - ・第2回 令和8年2月7日(土) 双葉町産業交流センター 大会議室
- (2) ふくしま震災伝承者交流会(令和7年12月9日(火))
 - ・講話 「目に見えない放射線 ―伝えたかったことと聞いたかったこと―」
講師 株式会社千代田テクノ社長付特別顧問／近畿大学客員教授 杉浦 紳之 氏
 - ・交流会 テーマ「あなたなら どう伝えるか？」
進行 ふくしま語り部ネットワーク会議 青木淑子会長
参加者 50名

2 伝承者育成

- (1) 伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議
 - ・第1回 令和7年7月2日(水) 富岡町文化交流センター 小ホール
 - ・第2回 令和8年1月23日(金) 福島県庁本庁舎5階 企画調整課分室1
 - (2) 伝承者育成講座・中国語講座(全4回)
 - 伝承者育成講座 修了者9名
 - 中国語講座 修了者1名
 - (3) 伝承者育成英語講座(全5回)
 - 修了者 4名
- ※育成講座(日本語・中国語・英語)実施概要(別紙資料)

3 語り部派遣

- (1) 語り部県内派遣事業
派遣案内チラシを福島県教育庁担当課及び私学・法人課を経由して、県内教育機関へ送付するとともに、語り部の積極的な活用を依頼した。
 - ・義務教育課→公立小中学校(義務教育学校含む)、福島大学附属学校
 - ・高校教育課→県立高等学校
 - ・特別支援教育課→県立特別支援学校
 - ・私学・法人課→私立小中高等学校、専修学校
- (2) 語り部県外派遣事業
派遣者数: 59名(59件)聴講者数: 5, 136名
※令和7年度語り部県外派遣の実績(別紙資料)
- (3) 3.11被災地視察研修(令和7年10月9日～10日)
東松島市東日本大震災復興祈念公園、東松島市震災復興伝承館、
未来学舎KIBOTCHA、松島市内の語り部との交流会
参加者 18名

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座／中国語講座 実施概要

○開講式・第1回伝承者育成講座

受講生19名（育成講座18名、中国語講座1名）

【日時】令和7年7月19日（土）10:20～16:30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

講師：ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木淑子氏

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

講師：富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

講師：ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第2回伝承者育成講座（1日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

【日時】令和7年9月27日（土）9:30～16:00

【場所】大熊町・いわき市薄磯地区

【内容】フィールドワーク①大熊町 講師：大熊未来塾代表 木村紀夫氏

フィールドワーク②いわき市薄磯地区 講師：いわき語り部の会代表：大谷慶一氏



○第2回伝承者育成講座（2日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

【日時】令和7年9月28日（日）9：00～15：30

【場所】双葉町産業交流センター

【内容】1時間目 意見交換会 講師：福島大学准教授 前川 直哉氏

2時間目「伝わりやすい話し方講座」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏

3時間目「プレゼンテーションスキルアップ」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏



○第3回伝承者育成講座

受講生 8名（育成講座7名、中国語講座1名）

【日時】令和7年11月29日（土）10：30～14：30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ」

講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏、福島大学准教授 前川 直哉氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第4回伝承者育成講座

受講生 10名（育成講座9名、中国語講座1名）

【日時】令和8年2月7日（土）10:00～12:00

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「成果発表」

講師：福島大学准教授 前川 直哉氏、富岡町3・11を語る会 代表 青木 淑子氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏、東北大学 准教授 佐藤 翔輔氏

中国語講座アドバイザー：（公財）福島県観光物産交流協会

観光部 海外誘客推進課 担当 陳 映蓉氏



令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（英語） 実施概要

1 講師

伊藤 Odbayar氏（リングイスト語学スクール代表）
：発音、イントネーション等英語指導等
野地 雄太氏（株式会社Beyond Lab代表取締役）
：「語り部」としての視点からの英語指導、表現のアドバイス等

2 日程・内容

○第1回講座

【日時】令和7年7月19日（土）

受講生①の講座：10：30～11：30

受講生②の講座：12：30～13：30

受講生③の講座：14：00～15：00

受講生④の講座：15：30～16：30

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」翻訳原稿の表現確認、質疑応答、原稿の音読等。

○第2回講座

【日時】令和7年9月27日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」原稿修正、原稿の音読、発音指導等。

○第3回講座

【日時】令和7年11月1日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」原稿の音読、発音指導、音読から伝える語りへの練習等。

○第4回講座

【日時】令和7年12月6日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

受講生④の講座：14：00～15：00

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」原稿の音読、発音指導、スライド資料を使用した語りの練習等。

○第5回講座

【日時】令和8年2月7日（土）10：00～12：00

【場所】双葉町産業交流センター 中会議室

【内容】「成果発表」

※アドバイザー 福島県国際課 国際交流員 Annabelle Purnomo 氏

令和7年度東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座（日・中・英）受講者の所属団体調べ

育成講座 No.	氏名	所属団体
1	^{あ べ} 安倍 さくら	F. tellers
2	^{こ じ ま} ^{も か} 小島 百花	—
3	^{さい か} ^{ひろ え} 雑賀 宏枝	—
4	^{さ と う} ^{た か し} 佐藤 崇	富岡町 3・11を語る会
5	^{しら と り} ^{み き} 白鳥 美紀	—
6	^{しん か わ} ^{ち え こ} 新川 智恵子	原発震災を語り継ぐ会
7	^{す ず き} ^{ま さ き} 鈴木 雅稀	F. tellers
8	^{た か む ら} ^{み は る} 高村 美春	原発震災を語り継ぐ会
9	^{ふ く し ま} ^{よ し こ} 福島 芳子	富岡町 3・11を語る会
中国語講座 No.	氏名	所属団体
1	^{お お た け} ^{ひ で こ} 大竹 英子	双葉町語り部の会
英語講座 No.	氏名	所属団体
1	^{こ い ず み} ^{み く} 小泉 良空	東日本大震災・原子力災害伝承館
2	^{さ と う} ^{ゆう き} 佐藤 勇樹	富岡町 3・11を語る会
3	^{み ふ ね} ^{さ と る} 三船 暁	福島浜通り復興まちづくり語り部の会 ※県外への転勤により退会
4	^{よ こ や ま} ^{わ か な} 横山 和佳奈	東日本大震災・原子力災害伝承館

令和7年度語り部県外派遣の実績

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

1. 派遣実績一覧

本事業における語り部派遣の実績は59件、聴講者数は5,136名であった。

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
1	令和7年5月24日 (土)	茨城県	ハクビ京都きもの学院茨城師範会	星降る古里ひろの	免許授与式&パーティー	鈴木恵子	60	45
2	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (小学5,6年生対象)	富岡町 3・11を語る会	防災授業	宗像涼	70	88
3	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (小学3,4年生対象)	富岡町 3・11を語る会	防災授業	宗像涼	60	87
4	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (保護者・地域住民対象)	富岡町 3・11を語る会	防災イベント	宗像涼	30	30
5	6月22日(日)	熊本県	原発避難計画を考える水俣の会	原発震災を語り継ぐ会	福島原子力災害の経験から水俣の避難計画を考えよう	高村美春	30	20
6	7月8日(火)	長崎県	清水地区自治協議会・コミュニティーセンター 北地区自治協議会・コミュニティーセンター	いわもと社会福祉事務所	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	岩本美智子	80	85
7	7月8日(火)	長崎県	山澄地区自治協議会・コミュニティーセンター	いわもと社会福祉事務所	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	岩本美智子	80	52
8	7月9日(水)	長崎県	佐世保女子高等学校	いわもと社会福祉事務所	東日本大震災を通し命の大切さを学ぶ	岩本美智子	160	120
9	7月15日(火)	東京都	東京都立農芸高等学校	いわき語り部の会	第2学年 震災学習	石川弘子	137	130
10	8月22日(金)	岡山県	備前市役所 文化スポーツ部 生涯学習課	いわき語り部の会	「災害時の人権」 ～地震・津波への初期対応と 避難生活時の配慮～	大河内喜男	50	49
11	8月29日(金)	山形県	川西町立中郡小学校	浪江まち物語つたえ隊	「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話 (下学年)	岡洋子	54	54
12	8月29日(金)	山形県	川西町立中郡小学校	浪江まち物語つたえ隊	「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話 (上学年)	岡洋子	56	56
13	9月4日(木)	香川県	坂出市立東部小学校 4年団	南相馬 原発・震災語り部の会	総合的な学習の時間	永岡富紀子	60	55
14	9月4日(木)	香川県	坂出市立東部小学校 教職員	南相馬 原発・震災語り部の会	教員研修の時間	永岡富紀子	30	22
15	9月10日(水)	栃木県	栃木県立大田原高等学校	ニコニコ菅野農園	飯館村実地研修事前指導 ～「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話～	菅野クニ	50	53
16	9月11日(木)	栃木県	佐野市役所 人権・男女共同参画課 人権推進係	いわき語り部の会	人権教育指導者養成 専門講座	石塚洋悦	25	23
17	9月11日(木)	三重県	尾鷲市婦人の会連絡協議会	いわき語り部の会	尾鷲市婦人の会連絡協議会 防災講演会	木村貞子	100	120
18	9月24日(水)	埼玉県	キヤノン・コンポーネッツ株式会社	いわき語り部の会	くゆう活>「ふくしま語り部」 講演会 東日本大震災・原子力災害	木村貞子	60	73
19	9月26日(金)	栃木県	日光市中宮祠自治会	山百合の会	奥日光地域防災の日 研修会	松田早百合	30	32
20	10月5日(日)	大阪府	シルバーユニオン災害ボランティア隊	原発震災を語り継ぐ会	「福島は今」	高村美春	30	27

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
21	10月10日(金)	宮城県	東北ノミ株式会社	双葉町語り部の会	東北ノミ株式会社 安全衛生協力会 第13回協議会	國分信一	43	43
22	10月24日(金) 【オンライン】	沖縄県	伊是名村立伊是名中学校	山百合の会	防災訓練	松田早百合	60	50
23	10月27日(月)	徳島県	徳島県立川島中学校・高等学校	いわき語り部の会	校内人権教育講演会(中高生, 教職員, 保護者対象)	石川弘子	530	510
24	11月5日(水)	沖縄県	今帰仁村立今帰仁中学校	富岡町 3・11を語る会	防災講習会	宗像涼	320	280
25	11月6日(木)	静岡県	静岡県掛川市立第一小学校	星降る古里ひろの	防災について考えよう	鈴木恵子	121	116
26	11月7日(金)	徳島県	徳島県立小松島西高等学校	富岡町 3・11を語る会	人権教育講演会	吉田恵子	540	500
27	11月11日(火)	静岡県	静岡県菊川市立加茂小学校 5年1組	震災ダンボールアート語り部の会	防災学習講演会	遠藤昭三	37	37
28	11月11日(火)	静岡県	静岡県菊川市立加茂小学校 5年2組	震災ダンボールアート語り部の会	防災学習講演会	遠藤昭三	39	35
29	11月15日(土)	長崎県	長崎県平戸市教育委員会 生涯学習課	いわき語り部の会	ひらど市民大学	大谷慶一	40	24
30	11月19日(水)	熊本県	津奈木町教育委員会	會空 (あいく)	津奈木町生涯学習講座 (津奈木町防災講座)	庄子ヤウ子	30	31
31	11月25日(火)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	26	26
32	11月26日(水)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	26	23
33	11月26日(水)	栃木県	上三川町教育委員会生涯学習課	いわき語り部の会	上三川町人権カレッジ第5回	大河内喜男	26	19
34	11月27日(木)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	60	54
35	12月3日(水)	長崎県	長崎県長崎市立福田中学校	いわき語り部の会	福田中学校人権講話	石塚洋悦	200	170
36	12月11日(木)	京都府	京都ノートルダム女子大学 佐藤研究室	シン・ふくしま自治体職員の学校	京都ノートルダム女子大学 理科室 (2階)	平野勝長	40	40
37	12月12日(金)	東京都	国分寺市立第十小学校	南相馬 原発・震災語り部の会	総合的な学習の時間「国分寺防災プロジェクト」での 震災講話	岩橋光善	91	104
38	12月16日(火)	青森県	国立大学法人 弘前大学	F. tellers (エフ・テラーズ)	弘前大学教養教育科目「持続可能な開発目標SDGs-弘前大学災害対応マネージャーその3 原子力災害の理解-」	穴戸結実	100	126
39	12月23日(火)	佐賀県	佐賀県唐津市	會空 (あいく)	東日本大震災・原子力災害「語り人(かたりべ)」講演会	庄子ヤウ子	150	93
40	令和8年1月10日 (土)	福島県	東日本大震災・原子力災害伝承館	浪江まち物語つたえ隊	東日本大震災・原子力災害 伝承館語り部講話	岡洋子	30	17

02

語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
41	1月10日(土)	福島県	東日本大震災・原子力災害伝承館	浪江まち物語つたえ隊	東日本大震災・原子力災害伝承館語り部講話	岡洋子	30	4
42	1月14日(水)	静岡県	静岡県立吉原林間学園	いわき語り部の会	防災学習「災害について知る・学ぶ ～自分たちにできること～」	石塚洋悦	10	11
43	1月16日(金)	神奈川県	神奈川県生活協同組合連合会	おおくま町物語伝承の会	3.11東日本大震災を忘れない ～15年前の災害から学ぶ～	橋秀人	20	15
44	1月22日(木)	静岡県	湖西市立岡崎小学校	ニコニコ菅野農園	5年生岡学 防災・減災講座	菅野クニ	130	130
45	1月26日(月) 【オンライン】	沖縄県	沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校	南相馬 原発・震災語り部の会	「ふくしま語り部」講演会	岩橋光善	60	50
46	1月29日(木)	滋賀県	米原市柏原中学校	相馬市観光協会	人権集会	井島順子	47	40
47	2月1日(日)	大阪府	安満人倶楽部 防災グループ	おおくま町物語伝承の会	安満人倶楽部と公園管理事業者パートナーズ（西武造園株式会社）との協働事業	橋秀人	100	37
48	2月4日(水)	茨城県	龍ヶ崎市立城之内中学校	ニコニコ菅野農園	震災学習	菅野クニ	210	193
49	2月5日(木) 【オンライン】	鹿児島県	鹿児島県立古仁屋高等学校	富岡町 3・11を語る会	記載なし	青木淑子	38	30
50	2月9日(月)	静岡県	駿河総合高等学校	相馬市観光協会	地域防災講話	井島順子	211	188
51	2月12日(木)	埼玉県	幸手市立吉田小学校	富岡町 3・11を語る会	東日本大震災の経験から学ぶ防災の大切さ（吉田防災フェスティバル）	宗像涼	80	50
52	2月13日(金)	新潟県	新潟市立小須戸中学校	山百合の会	東日本大震災を学びに変える	松田早百合	188	160
53	2月21日(土)	千葉県	君津市小櫃公民館	双葉町語り部の会	ふくしま語り部に学ぶ防災講座	國分信一	20	45
54	2月22日(日)	岡山県	和気町教育委員会 社会教育課	原発震災を語り継ぐ会	和気町公民館講座	高村美春	30	32
55	3月5日(木)	東京都	江東区立有明中学校	星降る古里ひろの	震災講話	鈴木恵子	385	350
56	3月7日(土)	東京都	羽村市	震災ダンボールアート語り部の会	羽村市防災週間	遠藤昭三	60	44
57	3月7日(土)	福島県	東日本大震災復興フォーラム実行委員会	南相馬 原発・震災語り部の会	3.11東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2026～	永岡富紀子	40	25
58	3月10日(火)	福島県	東日本大震災復興フォーラム実行委員会	F. tellers（エフ・テラース）	3.11東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2027～	發田紗織	40	37
59	3月11日(水) 【オンライン】	神奈川県	小田原市地域包括支援センターとみず	星降る古里ひろの	WEB参加型防災訓練 シェイクアウト訓練	鈴木恵子	100	175

申込み数 59件 / 予定聴講者数 5,560 名 / 実聴講者数 5,136名

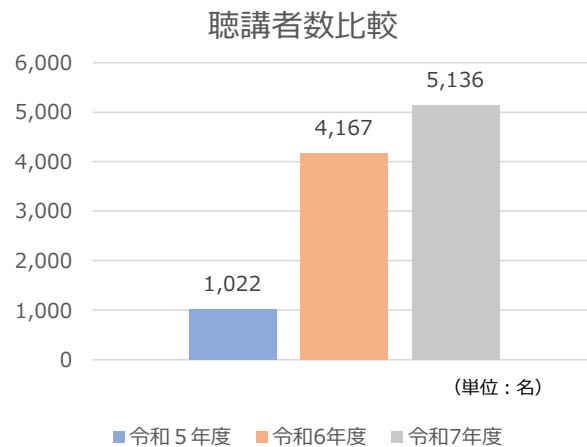
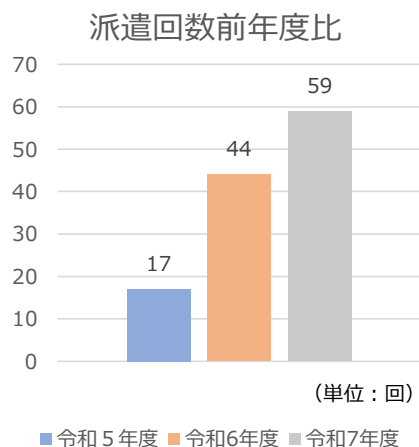
02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

2. 派遣回数・聴講者数の前年度比較

昨年度と比較すると、派遣回数は約1.34倍、聴講者数は 約1.23倍 となった。

	派遣回数	聴講者数
令和5年度	17 回	1,022 名
令和6年度	44 回	4,167 名
令和7年度	59 回	5,136 名



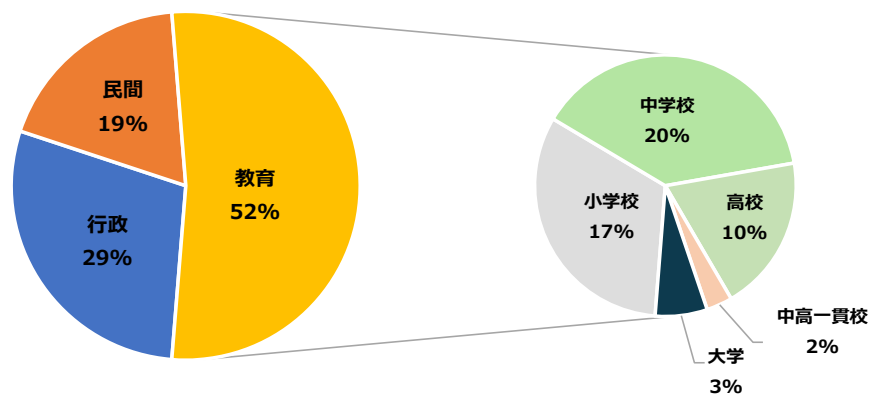
02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

3. 派遣先属性・地域等

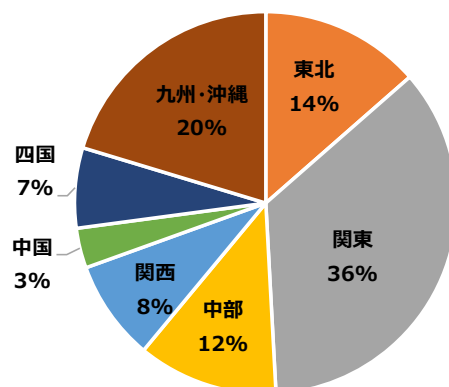
<主催者 属性>

主催者	行政	民間	教育	合計	教育内訳				
回数	17	11	31	59	小学校	中学校	高校	中高一貫	大学
					10	12	6	1	2



<主催者 地域別派遣回数>

地域	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州・沖縄	合計
回数	0	8	21	7	5	2	4	12	59



02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

<主催者 都道府県別派遣回数>

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
	1		1		2	4	2
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
4		2	1	7	5	1	
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
					6		1
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
1	1	2					
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
2			2	2			
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
1	5	2			1	3	59

<派遣回数上位>

1位	東京都	7回
2位	静岡県	6回
3位	神奈川県・長崎県	5回

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

4. 語り部・団体別 派遣回数一覧

<語り部別 派遣回数>

No.	語り部名	派遣回数	No.	語り部名	派遣回数	No.	語り部名	派遣回数
1	青木淑子	1	11	大谷慶一	1	21	橘秀人	2
2	猪狩輝美		12	岡洋子	4	22	橘弘美	
3	石川弘子	2	13	菅野クニ	3	23	永岡富紀子	3
4	石塚洋悦	3	14	木村貞子	2	24	發田紗織	1
5	井島順子	2	15	國分信一	2	25	平野勝長	4
6	岩橋光善	2	16	三船暁		26	松田早百合	3
7	岩本美智子	3	17	穴戸結実	1	27	宗像涼	5
8	遠藤絹子		18	庄子ヤウ子	2	28	吉田恵子	1
9	遠藤昭三	3	19	鈴木恵子	4			
10	大河内喜男	2	20	高村美春	3			

<団体別 派遣回数>

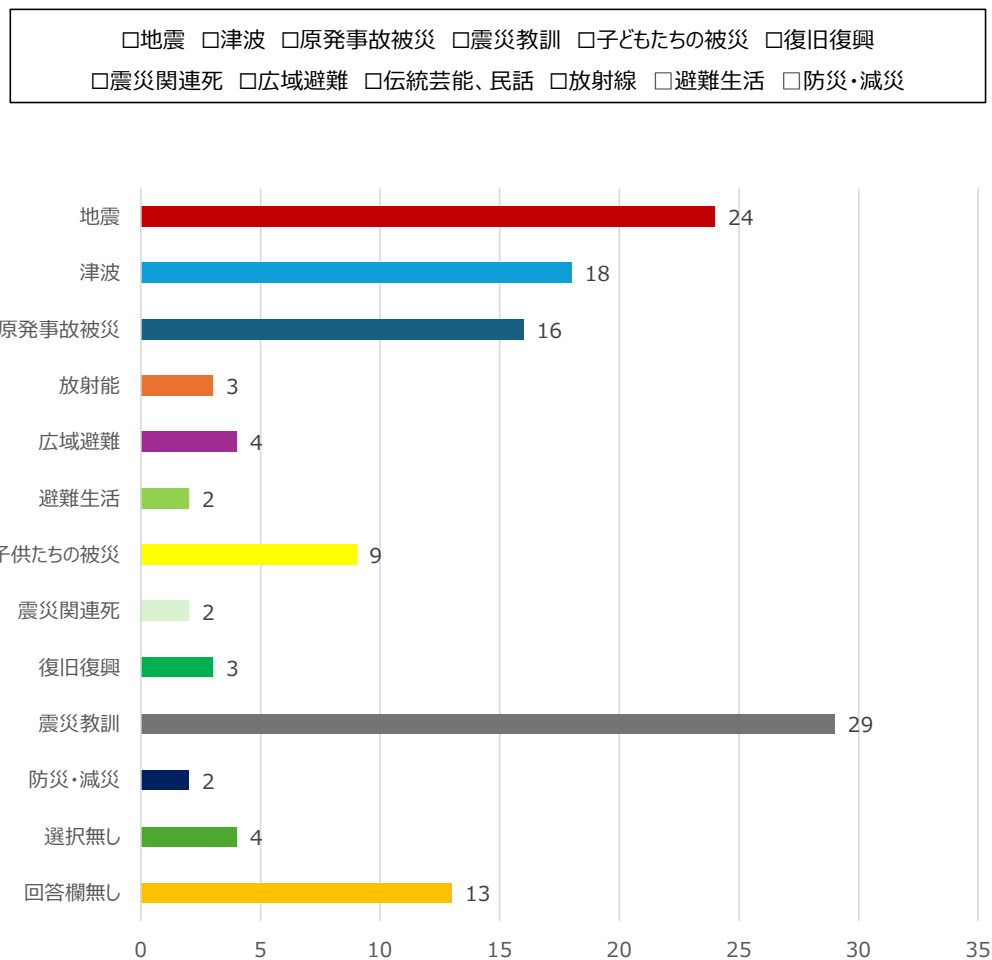
No.	語り部団体名	派遣回数	所属人数	所属 語り部名
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	2	2	穴戸結実、發田紗織
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	4	1	平野勝長
3	星降る古里ひろの	4	1	鈴木恵子
4	山百合の会	3	1	松田早百合
5	震災ダンボールアート語り部の会	3	1	遠藤昭三
6	いわもと社会福祉事務所	3	1	岩本美智子
7	會空 (あいく)	2	1	庄子ヤウ子
8	相馬市観光協会	2	1	井島順子
9	南相馬 原発・震災語り部の会	5	2	岩橋光善、永岡富紀子
10	原発震災を語り継ぐ会	3	1	高村美春
11	ニコニコ菅野農園	3	1	菅野クニ
12	浪江まち物語つたえ隊	4	1	岡洋子
13	双葉町語り部の会	2	1	國分信一
14	おおくま町物語伝承の会	2	2	橘秀人、橘弘美
15	富岡町 3・11を語る会	7	5	青木淑子、宗像涼、吉田恵子、 遠藤絹子、猪狩輝美
16	いわき語り部の会	10	5	石川弘子、大谷慶一、石塚洋悦、 大河内喜男、木村貞子
17	福島浜通り復興まちづくり語り部の会		1	三船暁

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

5. 要望する講演テーマ 一覧

今年度より、主催者には申し込み時に講演で希望するテーマを申込書へご記入いただく形で申込受付を行った。
申込書では、下記のテーマの中から、最大3つまで希望する講演内容を選択していただいた。
本年度において、主催者から選択された講演テーマの数をまとめたものが下記のグラフである。



4 協議（１）令和８年度次世代伝承者育成講座（日本語・中国語・英語）の実施について

令和８年度福島県東日本大震災・原子力災害

伝承者育成講座 開催要項（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から１５年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性がより一層増している。その一方で、後継者の育成が課題であることから、福島県の複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○開講式・第１回伝承者育成講座

【日時】令和８年７月１８日（土）１０：３０～１６：３０（受付１０：２０～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】開講式

１時間目「語り部の役割」

２時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

３時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

○第２回伝承者育成講座（１日目） ※宿泊については希望される方のみ。

【日時】令和８年９月２６日（土）９：３０～１７：２０（受付９：２０～）

【場所】集合場所：双葉町産業交流センター 駐車場

・フィールドワーク訪問地 大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動

・意見交換会 双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】フィールドワーク・意見交換会

○第２回伝承者育成講座（２日目）

【日時】令和８年９月２７日（日）９：００～１４：４５（受付８：５０～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】１時間目「伝わりやすい話し方講座」

２時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

○第３回伝承者育成講座

【日時】令和８年１１月２８日（土）１０：３０～１４：３０（受付１０：２０～）

【場所】富岡町文化交流センター学びの森 双葉町産業交流センター大会議室等(予定)
【内容】「プレゼンテーションスキルアップ2」

○第4回伝承者育成講座・修了式

【日時】令和9年2月13日(土) 10:00～14:00(受付9:50～)

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等(予定)

【内容】成果発表・修了式

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

○その他

(1) ①講座はマスコミオープンとする。

②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動(ウェブサイト、次年度以降のチラシ等)で利用する。

(2) 第2回伝承者育成講座は2日間にわたり開催する。宿泊は、希望者のみで、宿泊費は、受講者負担とする。宿泊先は、双葉町内のホテル(シングル8,000円程度)を予定。

(3) 全回、全課程を受講した者に修了証書を授与する。

(4) 受講修了者で、一定の条件を満たした者は、県外語り部派遣者として登録する。

4 受講対象 ・一般の方(高校生以上)で、福島県の震災伝承活動に関心がある方
・現在(過去も含む)、福島県の震災伝承活動をしている方

5 募集人数 15名程度

6 受講料 無料(交通費・宿泊費等は自己負担とする。)

7 申込方法

(1) 締切日 令和8年6月26日(金)

(2) 方法 受講希望者は、「(様式)令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書」に必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。

8 受講者の選考

受講申込みが募集定員を超えた場合は、未経験者を優先する。

選考結果は7月上旬に申込者全員に送付する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7784)

＜次世代へつなぐ震災伝承事業＞

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害 伝承者育成講座（中国語話者向け） 開催要項

【本講座の位置づけ】

本講座（中国語話者向け）は、主に日本語が分かる中国人の方または中国語を話せる日本人の方が、伝承者育成講座を日本語で受講し、語り部としての心構えや話し方等を学ぶものです。

- | | |
|----------|--|
| 1 事業の目的 | 中国語圏からの来県者の増加に伴い、今後さらに震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、福島県の未曾有の複合災害の記憶と教訓を、中国語で伝えることができる語り部を育成する。 |
| 2 主 催 | 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 |
| 3 日程・内容 | 令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 開催要項のとおり（日本語で行う本講座に参加するもの） |
| 4 受講対象 | 福島の震災語り部を希望する中国語が話せる方（日本語の講座が理解できることが条件） |
| 5 募集人数 | 2名程度 |
| 6 受講料 | 無料（交通費・宿泊費等は自己負担とする。） |
| 7 申込方法 | (1) 締切日 令和8年6月26日（金）
(2) 方 法
受講希望者は、「（様式）令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（中国語話者向け）受講申込書」に日本語で必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。 |
| 8 受講者の選考 | 受講申込みが募集定員を超えた場合は、書類審査により選考する。選考結果は7月上旬に申込者全員に送付する。 |

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784）

・令和8年度 伝承者育成講座

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

全体コーディネート：福島大学准教授 前川 直哉氏

回	項目	目的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月18日 (土) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定) 開講式 10:30～	開講式					
	語り部の役割 (90分) 10:40～12:10	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有ワークショップ (75分) 13:00～14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏 (予定)	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のあの日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ (120分) 14:30～16:30	多くの人に知ってほしい福島のおかし、いま、未来について、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える(各グループ) 班編制4人程度 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換(各グループ) ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 (予定)	・福島震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のあの日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18

※第2回研修までに語り部原稿・メモの見直し

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月26日 (土) (1日目) 双葉町産 業交流セン ター出発 <u>9:30</u> (予定)	語り部案内に によるフィールド ワーク① (120分) 9:50～ 11:50	福島県内の語り 部の活動内容を 実践の場で体験 し、その活動現 場を訪れる。また、 自分自身の経 験を語るために 必要なスキルや 伝えるべき震災 の実相について、 参加者の間で学 び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の 現状を把握するため、震災現場を 訪れます。語り部の実体験に基づく 説明を聞きながら、語り部活動の 重要性について考えます。 <内容案> ①震災現場訪問 ②語り部による地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールド ワーク① 中間貯蔵施 設 大熊未来塾 代表：木村 紀夫氏(予 定) ・バス移動中 (大熊～い わき) ネット ワーク会議会 員による案内 ・フィールド ワーク② いわき市薄磯 地区 いわき語り部 の会代表： 大谷慶一氏 (予定) ・バス移動中 (いわき～双 葉) ネット ワーク会議会 員による語り	・自身が発信すべきこ とを具現化することが できる。 ・自分事を相手に伝 え、共感を得ることが できる	・講師資料(講 師が準備の有 無を確認) ・フィールドワー ク資料(現場案 内で普段使用 しているもの) ※2日目研修 までに自身の語 り部原稿素案 (概要)を見直 し、原稿案とし て作成
	語り部案内に によるフィールド ワーク② (100分) <u>13:50～</u> <u>15:30</u>					
	意見交換会 (40分) <u>16:40～</u> <u>17:20</u>					
双葉町産 業交流セン ター 大会議室 (予定)			フィールドワークを終え、実際の現場 を体験してみでの感想や、語り部の 話す内容との違いや疑問等につい て、意見交換を行います。参加した 受講生の気づきや、自身の思いを 具現化するために必要なことにつ いて考えます。 <内容案> ①語り部との意見交換	意見交換 会：福島 大学准教 授 前川 直哉氏 (予定)	・自身の経験を価値 に変えるための気づき を得る	
宿泊準備						

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 (日) (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定)	伝わりやすい話し方講座 (90分) 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 特任講師 久保田彩乃氏 (予定)	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認) ※第3回講座まで発表の練習
	プレゼンテーションスキルアップ (180分) 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 特任講師 久保田彩乃氏 (予定)	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第3回 11月28日 (土) 双葉町産業交流センター 富岡町文化交流センター 学びの森 (予定)	プレゼンテーションスキルアップ 2 (180分) 10:30～ 14:30 ※途中60分 昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授 前川 直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第4回講座まで発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	備考
第4回 令和9年 2月13日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	成果発表 (120分) 10:00～ 12:00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	4～5グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。(1グループ3～4人＋講師) ※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部 (東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 会長・副会長・会員)	発表の様子は記録動画に保存し、受講者の振り返りに活用する。

修了式 (2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内)

令和8年度伝承者育成英語講座の受講者選定について

1 事業化の経緯

令和5年度に東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の意見交換において、「語り部を聞く方の中に外国人の方が増えていること。」「逐次通訳となる場合は、言いたいことが半分しか言えない。」「質疑応答には対応できないまでも、「語り」部分は自分で伝えたい。」といった意見があったため、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の主催事業として事業化した。

2 受講者選定の経過

- ・令和8年5月15日の東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議で承認された計画に基づき、開催要項を作成し、5月に参加者を募集。
- ・東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の登録団体から、計5名の推薦があった。
- ・募集人数は3名程度としていたため、事務局において以下の通り選考案を作成した。

3 申込者

(五十音順)

氏名	推薦団体	選考結果
石塚 洋悦 (いしづか ようえつ) (語り部経験年数5年)	いわき語り部の会	受講決定
上田 勉 (うへだ つとむ) (語り部経験年数4年)	東日本大震災・原子力災害伝承館	受講決定
管原 ユウ子 (すがはら ゆうこ) (語り部経験年数5年)	東日本大震災・原子力災害伝承館	選外 ※英語能力、ICT 活用能力を考慮
橘 秀人 (たちばな ひでと) (語り部経験年数5年)	おおくま町物語伝承の会	受講決定
福田 彰 (ふくだ あきら) (語り部経験年数6年)	東日本大震災・原子力災害伝承館	受講決定

4 今後の流れ

- ・令和8年7月18日(土)の伝承者育成講座開講式に合わせて実施する第1回を含めて、全5回実施予定。
- ・令和9年2月13日(土)の語り部ネットワーク会議の冒頭に修了式を実施予定。

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害

伝承者育成講座（英語）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性が増すとともに、インバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○プレ講座

【日時】令和8年 月 日（ ） ※オンライン

受講希望者全員が参加

【内容】英語講座の概要の説明と、それぞれの現在のレベルに合わせた到達目標を設定する。

○第1回講座

【日時】令和8年7月18日（土） ※対面（育成講座と同日）

伝承者育成講座開校式（参加任意）：10：30～10：40

受講生①の講座：10：40～11：40

受講生②の講座：12：40～13：40

受講生③の講座：14：10～15：10

※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行う。

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」

○第2～4回講座 いずれも候補日、オンラインを想定

【日時】令和8年9月5日（土）

令和8年10月17日（土）

令和8年12月5日（土）

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②～④」

○第5回講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10：00～12：00 ※対面（育成講座と同日）

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】成果発表

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

4 受講対象

- 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴3年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。
- 「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。

5 募集人数 3名程度

6 受講者選考方法

語り部団体から、「(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語) 受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から、事務局で選考案を作成し、伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議で承認を受けて、受講生を決定する。選考結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールで報告する。

7 受講料 無料(交通費、昼食費、オンラインに要する費用は、自己負担とする。)

8 全体スケジュールイメージ

事前準備(5月～6月)	講座受講(7月～2月)	成果発表	修了後
①語りの原稿(日本語発表で20分程度の原稿)を作成、事務局に提出。 ②県国際課で英訳・音声データの提供を受け、音読練習を行う。	○全5回講座、講師と受講生のマンツーマン式。 ※次回の講座まで、各自で自主練習(翻訳原稿の音読練習)を行う。	○第5回講座で成果発表(語り約20分、講評10分程度を予定)	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9 その他

- (1) 本開催要項の日程は、今後、参加者の状況に応じて変更することがある。
- (2) 成果発表は、講師のほか英語話者の聴講を調整する。
- (3) 本講座は英語スピーチの習得に特化したものであり、英会話の習得を目的としない。
なお、質疑応答は引き続き通訳を介することを前提とする。
- (4) 全課程を受講した者に修了証書を授与する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7784)

伝承者育成講座（英語）の課題と対応（案）

1 英語講座について

<現状>

- ・これまで、伝承者育成講座（英語）は事務局中心で実施しており、伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム（PT）での議論の対象となつてこなかった。
- ・育成講座（英語）についても、対象者や目指すべき姿を PT においてあるべき姿を議論して見直していく方針をネットワーク会議でも説明した。

<今後の対応>

- ・令和 8 年度については、予算等の制約もあり、概ね令和 7 年度の取り組みを踏襲しつつ実施する。前年度からの変更点は以下のとおり。
 - (1) 受講にあたっての目標の設定について
令和 7 年度までの取り組みを踏まえ、あらかじめ、受講者の能力や意思に合わせて到達地点を相談する。
 - (2) 受講者の要件について
原則として新規申し込みを対象とするが、人数に余裕がある場合には一度受講したものの再受講を認める。
 - (3) 講師の役割の明確化
原稿の英訳は事務局を通じて実施する。講座内では、スピーチ原稿やスライドの英語表現について、伝わりやすさの面から助言してもらえるようにする。
- ・令和 9 年度以降の取り組みについて、PT の場で議論したい。

2 講座修了者の活動の場について

<現状>

- ・英語での語り部講話を行う場がなく、修了者の活動実績がない。

<今後の対応>

- ・英語での語り部の利用方法や、語り部団体の情報をまとめたチラシ等の広報資材作成により需要の掘り起こしを図る。
- ・会津や中通りを含めた宿泊施設への周知・利用促進活動を実施する。観光物産交流協会等と連携することで、県外学校の学習旅行での語り部講話や、アジア系の団体旅行客の語り部講話等の利活用促進につながることも期待できる。
- ・修了者に対して、英語での語り部講話の強制感を与えないよう配慮する。

3 インバウンド向けの語り部活動に関するサポートについて

<現状>

- ・英語等での語り部活動をしていく上でのサポートがない。

<今後の対応>

- ・東日本大震災・原子力災害特有の単語や地名等の用語集等の作成等を検討する。正式な訳語が存在するものなどについてもまとめたものがあると、語り部の原稿作成や AI の学習のいずれにも役立てられる。
- ・ネットワーク会議等を通じ、生成 AI 等の活用方法や読み上げなどに使用可能なツールの情報共有などを図ることができるようにしていく。

4 英語講座のあり方について

<現状>

- ・伝承者育成講座（英語）は英語能力を伸ばす取組ではないため、受講者の英語能力により、個別に到達目標を設定する必要がある。修了後のレベルも様々で、様々な活動ができるわけではない。

<今後の対応>

- ・語り部ネットワーク会議の取り組みとして推進していく施策については再度検討の余地があると考えられる。大まかな方向性として、以下のような取り組みが考えられるが、インバウンド向けの語り部講話のあり方を決めてしまうという意図はなく、予算や人的なリソースの制約もあるため、組織的に育成、支援していくのはどういった方向性かということを検討していきたいという趣旨である。なお、先行する事例についても確認しつつ検討していく。

①これまでどおり、登録団体に活動している語り部を受講対象とする。

メリット：一定以上の経験を積んだ語り部が英語での語り部となることで、一定の質を担保できる。

デメリット：人材プールが限られ、高い英語力を期待することは難しい。

質疑応答を行えるようになるのは難しい。

②伝承者育成講座や伝承者育成講座（中国語）と同様、ネットワーク会議登録団体所属者に限らず一般から募集する。

メリット：英語での質疑応答が可能となる。

育成コストの低さ

デメリット：受講者の確保、リクルーティング。

③AI 等を活用した日本語の語り部講話と字幕の組み合わせにより、英語能力を問わないインバウンド向けの語り部講話

メリット：本人の言語能力に依存することなく活動が可能となる

デメリット：語り部としての活動を行うために、PC やプロジェクタ（又は大型モニタ）など、一定の機器の準備が必要となる。

次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム設置要綱

(設置)

第1条 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議第6条の規定に基づき、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）に次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム（以下「プロジェクトチーム」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 プロジェクトチームは、ネットワーク会議の人材育成に関する事項について検討し、検討結果をネットワーク会議に報告するものとする。

(組織)

第3条 プロジェクトチームは、委員7名以内で組織する。

2 委員は、ネットワーク会議において指名する。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(部会長及び副部会長)

第4条 プロジェクトチームに、座長を置く。

2 座長は、委員の互選により定める。

(会議)

第5条 プロジェクトチームの会議は、ネットワーク会議会長が招集する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、プロジェクトチームの会議の運営に関し必要な事項は、ネットワーク会議において定める。

附 則

この要綱は、令和4年12月9日から施行する。

**東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部ネットワーク会議設置要綱**

(設置目的)

第1条 東日本大震災・原子力災害の記憶と教訓を後世へ伝えていくため、県内の語り部団体等が連携し、持続可能な震災伝承の体制を構築することを目的として、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 ネットワーク会議は、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 語り部団体の連携促進に関すること。
- (2) 語り部の人材育成に関すること。
- (3) 語り部の県外等への派遣に関すること。
- (4) その他ネットワーク会議の目的を達成するために、会長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 ネットワーク会議は、第1条の目的に賛同する県内語り部の団体を代表する者等（以下「委員」という。）をもって組織する。

- 2 委員は、無報酬とする。
- 3 ネットワーク会議に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長及び副会長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第4条 会長は、ネットワーク会議の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会長は、ネットワーク会議を招集し、年1回以上開催するものとする。

- 2 会長は、ネットワーク会議を招集しようとするときは、書面により会議の日時、場所及び議題をあらかじめ委員に通知するものとする。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見・助言を求めることができる。
- 4 会議は公開で行う。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、非公開とすることができる。
- 5 会議の資料及び議事録については、原則として公開する。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、その全部又は一部を非公開とすることができる。

(部会)

第6条 ネットワーク会議に、部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営については、別に定める。

(事務局)

第7条 ネットワーク会議の事務局を、福島県文化スポーツ局生涯学習課に置き、生涯学習課長を事務局長とする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、令和4年11月6日から施行する。